

# BCリーグにおける地域密着度に関する研究

## A study on Community Relationship Scale of BC League

1K05B098

指導教員

主査 木村和彦先生

齋藤 郁也

副査 武藤泰明先生

### 【緒言】

2007年に四国アイランドリーグ(現四国・九州アイランドリーグ)に続く日本で2番目の野球の独立リーグとして、BCリーグ(初シーズン時北信越ベースボール・チャレンジ・リーグ)が誕生した。BCリーグは目的として野球事業を通じた地域活性化、地域貢献を打ち出している。つまり、近年様々なスポーツでも言われている、地域密着ということである。では、地域密着を目的としているBCリーグの現状は果たしてどういふものなのか、各球団がどのくらい地域に密着しているのかを知りたい、といった動機から本研究を開始した。地域密着度を数値という形で可視的にする。対象をBCリーグ全6球団とし、その数字から各項目の問題点、各球団の問題点、課題を考察する。

### 【方法】

地域密着度を測る尺度として、先行研究を参考に Output(クラブが提供するサービス)、Input(ホームタウンの人が供給してくれるもの)という2視点の10項目を採用して可視的なものにした。

Outputは巡回野球教室の件数とのべ参加人数、栄養教室・保健教室などの講演数とのべ参加人数、上記以外のホームタウンでの活動(ボランティア等)の件数とのべ参加人数、野球以外のスポーツチームの活動、ホームゲーム年間動員数/ホームタウン人口、ホーム球場収容率の6項目。Inputは全チームスポンサー/ホームタウン企業、地元出身選手・コーチ・監督/登録選手、登録制ファンクラブ人数/ホームタウン人口、無料招待チケットの配布枚数の4項目。以上10項

目。結果はMicrosoft office Excel 2003を使用し、各項目の平均、標準偏差、標準得点を出した。最終評価では各球団ごとにグラフ化し、平均値を算出して比較した。

標準得点 = (対象の数値 - 平均) × 10 ÷ 標準偏差 + 50

巡回野球教室の件数と参加人数、講演件数と参加人数、ホームタウンでの活動内容と件数と参加人数、野球以外のスポーツチームの活動、登録制ファンクラブ人数、無料招待チケットの配布枚数は各球団に質問紙を郵送。年間動員数/ホームタウン人口、ホーム球場収容率、チームスポンサー/ホームタウン企業、地元出身選手・コーチ・監督/登録選手はインターネットを使用して調べた。

### 【結果】

2008年度BCリーグ6球団の中で、最も総合得点が高かったのは57.1点をマークした信濃グランセローズであった。栄養教室・保健教室などの講演数とのべ参加人数の項目で突出した数値を記録した。その他巡回野球教室の件数とのべ参加人数、地元出身選手・コーチ・監督/登録選手の項目でも高い数値を記録した。以下の順位は2位福井ミラクルエレファンツ、3位新潟アルビレックスBC、4位群馬ダイヤモンドペガサス、5位富山サンダーバズ、6位石川ミリオンスターズという結果となった。

### 【結論】

この順位というのはあくまでBCリーグ6球団の

中での話である。例えば BC リーグ6球団の巡回野球教室の平均件数は 27 件であるのに対し、J リーグ J1の巡回サッカー教室の平均件数は 176 件(2006 年度)、J2の巡回サッカー教室の平均件数は 67 件(2006 年度)と大きく差がある。他の項目を比較してみても BC リーグは J リーグに大きく及ばない。だがこれは当然である。BC リーグは

2年目のシーズンが終わったばかりである。まずはひとつひとつ各球団の課題を克服していくことで地域密着を目指していくことが最も重要であると考えられる。そして今後の BC リーグが J リーグやプロ野球の行う活動規模に近づいていくことを願う。